

地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会菊池支部

春すいか栽培におけるクロマルハナバチを活用した交配への取り組み

すいか栽培では、2番果以降はミツバチを利用した交配を行っており、ミツバチの多くは養蜂家からのリース供給に頼っていますが、近年は高温化やダニによるへい死を一因とするミツバチの群数の減少が懸念されています。

菊池支部では、持続可能なすいか生産に向けて、ミツバチの代替昆虫としてクロマルハナバチを利用した交配への取り組みを実施しました。管内では、すいかでのクロマルハナバチの導入事例はないため、初めての試みとなります。

菊池地域は切り戻し栽培¹⁾であり、他地域の植え替え栽培と比較すると繁殖しやすいことから、クロマルハナバチが葉の陰にある花を見つけることができるのか、当初は心配の声もありました。

しかし、クロマルハナバチ巣箱を設置したハウス内では、曇天にもかかわらず次から次へとクロマルハナバチが訪花する様子がみられ、予想以上の働きに今後の交配活動へ期待が高まっています。

来年度は、着果率や肥大状況まで調査を行い、クロマルハナバチの導入に向けて引き続き関係機関が一体となって支援を行っていきます。

1) 切り戻し栽培：1番果の収穫後、畝の中央部で蔓を切断し新しい蔓を仕立てて2番果以降を生産する栽培方法。



風通しを確保し遮光を行った
クロマルハナバチ巣箱の設置状況



花粉荷（花粉団子）をつけた
クロマルハナバチ